

Title: 「思い出だけ捨てればいいじゃない。」



大谷 可奈子
154センチ、45キ
ロ、A型、おうし
座。
すぎなのは、アジ
ア・インド・家族・
ネコ・カレー・すし
です。

● 最近のエントリー

- 📅 [コプチャイ／6ホック](#)
(2011.12.22)
- 📅 [コプチャイ／5ハー](#)
(2011.12.20)
- 📅 [サバイディン／4シー](#)
(2011.12.16)
- 📅 [サバイディン／3サン](#)
(2011.12.16)

● アーカイブ

- 📅 [2011年12月](#)
- 📅 [2011年02月](#)
- 📅 [2010年02月](#)
- 📅 [2010年01月](#)
- 📅 [2009年09月](#)
- 📅 [2009年07月](#)
- 📅 [2009年05月](#)
- 📅 [2009年04月](#)
- 📅 [2008年11月](#)
- 📅 [2008年10月](#)
- 📅 [2008年09月](#)
- 📅 [2008年05月](#)
- 📅 [2008年01月](#)
- 📅 [2007年12月](#)
- 📅 [2007年11月](#)
- 📅 [2007年10月](#)
- 📅 [2007年09月](#)
- 📅 [2007年08月](#)
- 📅 [2007年07月](#)
- 📅 [2007年06月](#)
- 📅 [2007年04月](#)
- 📅 [2007年03月](#)
- 📅 [2007年01月](#)
- 📅 [2006年12月](#)
- 📅 [2006年11月](#)
- 📅 [2006年10月](#)
- 📅 [2006年09月](#)
- 📅 [2006年08月](#)
- 📅 [2006年07月](#)
- 📅 [2006年06月](#)
- 📅 [2006年05月](#)
- 📅 [2006年04月](#)
- 📅 [2006年03月](#)

● アーカイブ

- 📅 [2011年12月](#)
- 📅 [2011年02月](#)
- 📅 [2010年02月](#)
- 📅 [2010年01月](#)
- 📅 [2009年09月](#)
- 📅 [2009年07月](#)
- 📅 [2009年05月](#)
- 📅 [2009年04月](#)
- 📅 [2008年11月](#)
- 📅 [2008年10月](#)
- 📅 [2008年09月](#)
- 📅 [2008年05月](#)
- 📅 [2008年01月](#)
- 📅 [2007年12月](#)
- 📅 [2007年11月](#)
- 📅 [2007年10月](#)
- 📅 [2007年09月](#)
- 📅 [2007年08月](#)
- 📅 [2007年07月](#)
- 📅 [2007年06月](#)
- 📅 [2007年04月](#)
- 📅 [2007年03月](#)
- 📅 [2007年01月](#)
- 📅 [2006年12月](#)
- 📅 [2006年11月](#)
- 📅 [2006年10月](#)
- 📅 [2006年09月](#)
- 📅 [2006年08月](#)
- 📅 [2006年07月](#)
- 📅 [2006年06月](#)
- 📅 [2006年05月](#)
- 📅 [2006年04月](#)
- 📅 [2006年03月](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2011年12月 アーカイブ

11.12.22

コプチャイ／6ホック

[Tweet](#)

[いいね! 0](#)

[m チェック](#)

さて、日本に帰ってきてすでに4日。

仕事にも復帰しました。





ラオス旅の最中、こんちゃんと徳田くん
「そんなに色んなものに感動できてうらやましい」
というようなことを何度も言われました。

わたしたちは学生のころのフィールドワークでアジア9カ国を旅したし、
徳田くんはそのあとにもそれはそれはたくさんの国を訪れているし、
マレーシアに住んでいたし、
こんちゃんは仕事でベトナムに住んでいたこともあったので、
新鮮味が薄れることは仕方のないことなんだと思います。

わたしは単に二人よりも海外自体が久しぶりだったから、
その感じになつかしくてワクワクしていたのだけど、
それでも初めてアジアを旅したときより色んなことに慣れて鈍くなっているとは感じていて、
一抹のさみしさを覚えたのも事実でした。

経験を重ねることによって、さみしくなっていくこともあるんだぁなんて。







だけど、変わってよかったと思うこともありました。

学生のころ6ヶ月間の旅の終わりには、わたしは「日本へ帰りたくない」と思っていました。日本は忙しいしみんな冷たいし。そんなことを言って姉に怒られたことも覚えています。

ビエンチャンに戻ってから、徳田くんの友人のラオス人のパンさんとお食事をしました。別れ際、パンさんが「Thank you for coming to Laos.」と言ってくれました。

わたしは日本を訪れてくれた人にこんなふうに言えるだろうか？ きっと言えない。でも、言いたいな、と心から思いました。

そのためには、もっと日本を好きにならないといけないな。

そんなことを思っ帰国しました。

帰ってきて驚くのは、やはり日本クオリティーの高さ。シャワーのお湯は必ず勢よく出るし、トイレは絶対に流れるし、停電はしないし、電車は時間どおりだし、窓や壁には隙間なんてないし、水道の水は飲めるし。

学生のころはそういうことも「なんかつまらないし窮屈だな」と思っ帰りたくないか言っていたけど、やはり日本のこういっところは世界に誇れることなんだなと改めて実感。落とし物が手元に無事届くなんて本当に素晴らしいことだし。なにより安全でごはんもおいしいしね。

年をとって感性は鈍ったかもしれないけど、こんなふうに思えるようになったのはよかったなと思うのです。わたしも少しは大人になったかしら。





話は変わりますが、村からルアンパバーンに戻ってきて、わたしたちはそれはそれはよく食べました。朝ごはんは麺を食べて、ドーナツとケーキを買って、サンドイッチを買って、お菓子を買って、ジュースを買って、お昼ごはんを食べて、午前中に買ったものを食べて、夜は屋台で10000kip（約100円）で盛り放題のごはんを食べて。

3人も食べるのが好きでよかった。だって楽しかったもん。

最後のマレーシアの夜は「打ち上げだー！」と言って、これからしばらくひとりぼっちになる徳田くんのため(?)に日本食の食べ放題にいったけれど、なんとおいしくないことか！そうそう「まずい」なんて言わない徳田くんも顔をしかめるほど。

最後ののにみんなで「まじーまじー！」と言いながら、でも結局みんな3皿くらい、デザートまで食べて、いやーやっぱり食べるの好きなんだねという結論に落ち着く食いしん坊。

ラストナイトの贅沢夜ごはんがうまくいかないとは、なんともうちらしいというかなんというか。



最近、文章を書くということを全然していないので、もう何がなんだかわからなくなってきたけど、えーっとえーっと。

そう！

日本に帰ってきて一番感じたことは、わたしはなんて恵まれているんだろうということ。

「3週間ラオスに行く」と人に言うと、まず「新婚旅行？」とか、「え？なんでラオス??」とか、「そもそもラオスってどこ??？」とされました。

ネリムネうね

「シャッペンして。
ふつうは結婚してからこんなことできないでしょう。」

家事もうまくできないダメ嫁のわたしに、
「行きたいんでしょ？それなら行っておいでよ」
と嫌な顔ひとつせずを送り出してくれた世界一素敵なマイハズバンド・淳ちゃんには、感謝してもしきれない。

そして、わたしがこんな経験ができたのは、やっぱりこんちゃんと徳田くんのおかげ。

わたしなんか英語もしゃべれないし、森を歩くのは遅いし、重い荷物は持てないし、ずーっと足を引っ張り続けていたけど、
二人は、そんなことは気にしないでいいと言い続けてくれました。

村で二人が水浴びに行っている間、わたしが人の家に招かれてはぐれてしまったときに走って探しにきてくれたときは愛を感じました。
(きもい?)

そもそもなぜわたしを誘ってくれたんでしょうか？
それは未だに謎ですが、わたしはこんな面白いことを企画して実現できる二人を誇りに思うし、こんな友達がいるよかったですと心から思います。

二人に、コブチャイライライ！

こんな旦那さんがいて、こんな友達がいる、こんなことが経験できる人生でほんとにわたしは幸せ者だな。

次はどこへ行くのかしら？
わくわく！

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2011.12.22 | [パーマリンク](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[思い出だけ捨てればいいじゃない。](#) > 2011年12月 アーカイブ

11.12.20

コブチャイ / 5ハー

[Tweet](#)

 いいね! 0

 チェック

サバイディー！

リアルタイム更新の夢叶わず、なんと昨日帰国してしまいましたが、
ラオスにいる気持ちでブログアップ。

今回のラオス訪問の真の目的は、
写真を残すことが日常的でない村で写真を撮らせてもらい、その場で写真展開催&ポートレートをプレゼントする！ということなのです。

今回はそれがラオスの象使いのいる村・Huay Laiとなったわけですが、
今後も世界各地に飛んでいって、写真を残していこうという計画です。
なんて素敵な計画！わくわく！

こんなスバラシイ企画をたてて、こんな平和ボケ主婦のわたしを誘ってくれたこんちゃん&けいちゃんコンビに心から感謝。

さて、村で写真展を開催するにあたり、最大の問題は電力だったわけです。
Huay Laiには多少電気がありましたが、村長の家でさえ、テレビをつけると部屋の電気が消えるという状態。
我々には滞在期間のリミットがあったし、最大限この村で撮影をしたかったので、
電気の安定した町まで戻ってプリントアウトするなんて余裕はないのです。

しかしながら、プリントアウトするにはPCとプリンターの為の安定した電力が必要。
結局、写真展前日の時点でこの村でプリントアウトすることは不可能でした。

なので、泣く泣く、町とはいかないまでもHuay Laiよりやや電力の安定した船着き場の村・タヌンまで戻ることに。

夕方まで撮影をして、大急ぎで自分の荷造りをして、トラクターでタヌンへ。
私たちは徹夜覚悟で臨むわけですが、人のお宅でやらせてもらうので、
はっきり言って超申し訳ない・・・。
しかも我々の作業に安定した電力が必要なため、その他のあらゆる電気を節約してもらうような状態。

な、い、て、わ、た、し、

びー！とんはない！

暗闇でのプリントアウト作業。
く・・・暗すぎる・・・！！



そして翌朝、なぜだかついでにどっかに貼る外国人用の注意書きを書いてと頼まれるわたし。
“屋根にのぼらないでください”って。なんでやねん。

そして深夜に及んだプリント作業によりシャワーを浴びることを諦め、
ぎったない状態で村に戻るわたしたち。
途中でかわいい母子を乗せて、乗り合い状態となった楽しいトラクター。



ガイドのスックに「なにか歌って」と言われて、ゴキゲンにももクロを熱唱する陽気すぎる日本人に、かわいい母子はドン引きだったことでしょう。

村に戻ってさっそく写真展の準備。
村長も手伝ってくれています。
ひもの補強に竹を持って来て立ててくれたり。
ななななんて優しい人たちのの！！



そして写真展開催！







村に来た当初はカメラを持って現れた謎の外国人を不審がっていた女性たちも、みんな見に来てくれました。

「自分が写っている写真は展示しているそばから持ち去られるかもしれない」という我々の心配をよそに、村の皆さんはそんなことする気配もなく、とてもマナーよく写真を見てくれました。

ラオスの方々、本当に礼儀正しくマナーがよいと思いました。
(インドじゃこうはいかないだろう・・・)

そして写真展開催と同時に、今度はプレゼント用のポートレートを撮りまくる！
目標は、村人全員。

わたしは写真を展示してそれを見に来る村人の姿を眺めているだけでなんだか満足してしまっ

てばーとしていましたが、
「展示だけじゃすぐ飽きられる！」と喋ってすぐさまポートレート撮影に走り出すけいちゃん
こんちゃんのプロ(?)意識に感心。
わたしも追いかける！

最初は写真を撮られるのを嫌がっていた人も、写真展を見たからか、
笑顔で「わたしも撮って」と言ってくれるようになりました。



「写真を撮らせて」と言うと、照れながらきれいな服に着替えをして出て来てくれたりします。
そんな姿を見ると、もう本当に胸がいっぱいになります。

今わたしは写真館で七五三や成人式などの記念写真を撮る仕事をしているんですが、
記念写真で本当にすばらしいものだなって思います。
その家族の記念の1ページにわたしが撮った写真が残るなんて、なんて嬉しいことでしょう！
撮影中はアドレナリンが吹き出すような感覚です。
興奮して、終わってからぐったりします。

そんな感覚が、この村で撮影したときにもありました。

写真を撮る環境は、写真館と全然違います。
写真館みたいにきれいな衣装もないし、照明もないです。
でも、幸せな家族のこの時を撮る感覚は同じです。

喜んでもらえたらいいな。
何年後に、「なつかしいね」「この時はこんなだったんだね」って見てもらえたらいいな。
そう思うと自然とテンションも上がってきたし、笑ってもらおうと必死になれました。

ああ、なんて幸せな時間！！

そして翌日は村の人々に写真のプレゼントです。

さすがにこのプレゼント写真はこの村でプリントできないかとスックに相談し、
電力対策を練ってもらいました。
この村の電力は川の水を利用した装置で生み出されているのですが、
どうやらその装置に川の藻がからまるそうなんです。ね。
そうすると安定した電力が供給されないと。

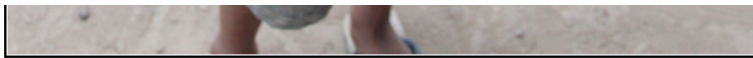
そこでその装置の見張り番というか藻取り役を一日雇い（安かった・・・）無事村長のお宅で
プリント作業。

撮影したものからじゃんぱんプリントし、ようやくプレゼントの用意ができました。
ほぼ全員の村人を撮ることができました。



ハー21.JPG





無事、村の人々の手に渡りました。
ああうれしい。
頼むから、色あせずに一日でも長持ちしてほしい。

東南アジアの国に行くと「貧しいけど明るい人たちの姿」を撮ろうとするような妙なフィルターが自分自身にかかることがあるけど、この村ではそんな気持ちが湧いてくることはありませんでした。

本当にフラットな状態で、日本の写真館できれいなドレスや着物を着たお客さんの写真を撮ると何も変わらない気持ちで写真を撮れたし、数日間の村生活を送ることができました。

それは自分の気の持ちようも多少はあったかもしれないけど、やっぱりこの村の人たちが本当に明るくて幸せそうに見えたからだと思います。

子どもを大切にしている、みんな仲が良くて、笑顔がきれいでした。

わたしたちが撮った写真、ずっと持っていてくれるといいな。

写真展を終え、わたしたち3人は無事モニカのアパートに戻りました。

水やら食べ物やらトイレやらシャワーやら、出発前は心配事が絶えなかったけど、
(いや、徳田くんは野生児だから心配なんかなかっただろうけど)
3人ともお腹をこわすこともなく村生活を予想以上に快適に過ごしました。

体調は日本にいる時よりもよく、
「自然で体にいいんだね」なんて言いながら。

しかし残念なことに、村最終日、なんとガイドのスックが完全にお腹をやられて病院に行くことになりました。

なんでーーーーー！？

現地人でしょーーーー！？

つーか、あなたの出身の村で、あなた実家に寝泊まりしてたでしょーーーー！？

たぶん原因は、ラオハイとラオラオの飲まされすぎです。
どの家に行っても飲まれるから、後半、スックは完全にゲッソリしてました。
しかもお金まで取られて超かわいそうでした。

わたしたちの無理なお願いをいっぱい聞いてくれてがんばってくれたスック。
お別れなのにちゃんとありがとうも言えないまま、病院へ行ってしまいました。

だからお手紙に「ラオスでナンバーワンのガイドだよ」と書きました。

最後の完全に具合悪い顔のスックと、言葉全然通じないのにお腹がよじれるほど笑い合ったコックのおばちゃんのワンさん。





楽しかった！だいすき！
心からありがとう。

カテゴリ：

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2011.12.20 | [パーマリンク](#) | [コメント\(1\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2011年12月 アーカイブ](#)

11.12.16

サバイディー / 4シー

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

この旅の目的は、象使いのいる村で撮影をすることだったのです。実は。

Huaiy Laiyiには象使いが5人ぐらい滞在していて、森から木を運んで来たりするために毎日何時間も森を歩いているのです。

我々3人は朝早起きをして、象使い（MAHOUT）についていきました。

まず森につないでいる象を、1時間くらいかけて歩いて迎えにいきます。山歩きに慣れていないわたしはついていくだけで必死。何回川を渡ったでしょうか。川をぎぶぎぶ渡り、細い道をひたすら歩き。



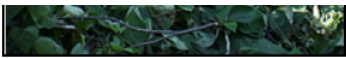
MAHOUTのボス。腰にどでかいナイフを差して超かっこいいです。寡黙だけどたまに笑顔みたいな。

そして象！
こんな間近で見るのはもちろん初めて。
象って体が大きいから、広々したところにしかいられないのかと思っていたのに！
こんな狭いところにいられるのね！
知らなかった。

しかも木がたくさんあるから、5メートル離れただけで象の姿は見えなくなるのです。こんな大きな体をいとも簡単に隠してしまう森もほんとにすごいねー。







象を迎えにいったあと、また1時間かけて村に戻り背中になにやら装備をつけてまた出発。
なかなか効率が悪い・・・と思ってしまうのは日本人の悪いところかしら。
おあらかじめ仕事してますね！

MAHOUTたちとの森歩きでは、明らかにわたしは足を引っ張っていました。
彼らはとにかく歩き慣れているので、歩くのが速い！
わたしといえば、些細なでこぼこに翻弄されて全然進まない始末。。。
みんな、ごめんなさい。

のろまなわたしを見兼ねて、MAHOUTのいちゃんが家に乗っていいよとってくれました。
マジ？！
乗れるの？！
やったー！！！！
徳田さんとこんちゃんの羨望の眼差しを一身に浴びながら、エレファントライディング。



ルアンパバーンとかでは観光客用のエレファントライディングツアーみたいのがあるみたいだけど、この象は正真正銘・森で働く象。お客さんを乗せる用ではないので、非常におしりが痛いし、なんたって高く揺れるからこわい。

MAHOUTのいちゃんはこんな揺れる象の上に適当に横座りしてるからびっくり。落ちないのか。

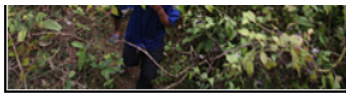


必死で象につかまり続けていましたが、慣れてきたらやっぱり高いところからの眺めは最高！森歩きは大変で常に足下しか見えていなかったけど、森、山の全貌をようやく見る事ができました。ほんとうにきれい。

後ろを振り返ればちょいと優越感！みんな身長くらいある草に囲まれた細い道を歩いております。

わたしに気がつかって、体にぶちあたってくる木の枝をMAHOUTのいちゃんが腰に差したナイフでばさばさ切ってくれます。なんか罪悪感。。。ごめんなさい。





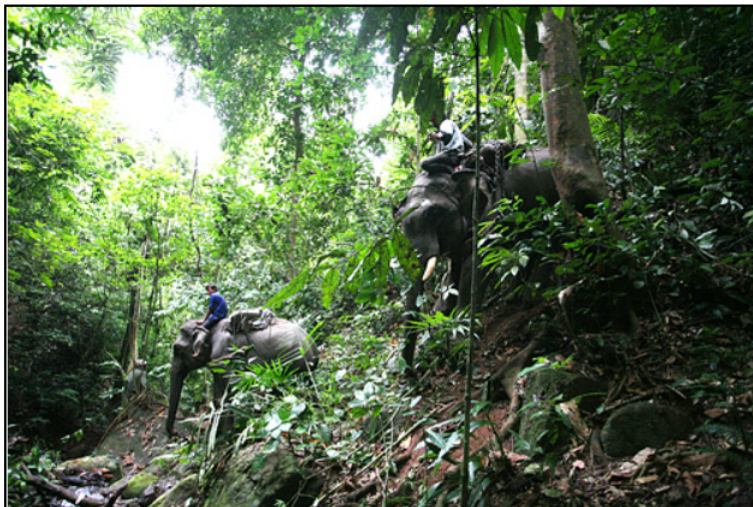
どうですか。
森の中のふたり。
サマになってます。



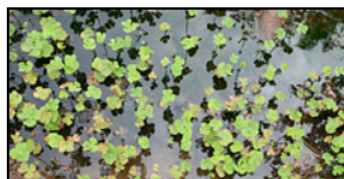


森での記念撮影はふたりとも漂々しく撮ったんですが、後に、このときふたりともズボンのファスナーが全開だったことが発覚したんです。
なんなんでしょう、こんななかつつけてんのに！バカ！





山の急斜面を象が登り、そこで木を切り倒しておりてきます。
象が斜面を登れることも初めて知りました。
2頭体制で行きましたが、この日運んだ木は1本。
1本の木を斜面から滑り落とします。
こわい！っつーか危ない！





MAHOUTのボスがナイフを磨いています。
このナイフで言うこときかない象の頭をバコバコ叩いたりするんですよ！
マジかよ！切れないのか頭は！



MAHOUTとのランチ。



不思議なものです。
この時は「うわぁーお腹すいたー！お昼だ！やったー！」って思ったんですが、
町に帰ってきて3人でこの写真を見たら、
「え？なにこれ？うちらこれの何を食べたんだ?!」って驚きました。
そこらへんで拾った葉っぱじゃないか。

一体わたしたちは何を食べたんだ。
日本にいたらこれはゴミなんじゃないだろうか。

環境でこんなに感じて変わるのね。
ほんとに人間でおもしろいね。



この日は合計8時間ほど森を歩き続けて、1本の木を村まで運びました。
とてもいい木のようなんですが、6人くらいの人手で8時間かけて、木一本。

きっと日本だったら、あっという間に木を切れるように森を開拓して舗装道路を作ら
しょう。
象を使わないでしょう。

こんなことを経験できて本当によかった。
森に生きる男たちは心からかっこいい。

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2011.12.16 | [バーマリンク](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[思いだけ捨てればいいじゃない。](#) > 2011年12月 アーカイブ

サバイディー／3サン

[Tweet](#)

[いいね！ 0](#)

[チェック](#)

サバイディー！

ようやく目的地Huaiy Laiyiに到着。





村では村長のお宅にステイさせていただきました。



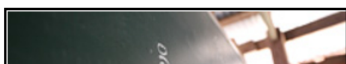
村ではよくあるやつですが、歓迎のお酒を飲まされます。
ラオハイというお酒なんですが、凶悪な味の奥底にわずかなフルーティーさがあります。
みんなでこうしてストローのようなやつで回し飲み。

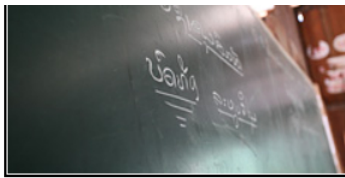




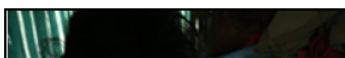
にこやかにオタマジャクシを調理中。
でかい刃物で器用に内臓をびっと取り出しています。
オタマジャクシは日本のより巨大。







村の女子会に参加。
みんな昼間からお酒を飲んでます。
この村にはラオハイより凶悪な“ラオラオ”というお酒があります。
ピンにはいってるやつ。
私はお酒飲めるけど甘いやつしか飲めないタチなので、こういうのはほんとにつらい。
一口でどが爆発しそうになります。





Huaily Laiyiには57軒のお宅があります。
どの家に行ってもみんな飲んでいて、必ず飲め飲めと勧められます。
はっきり言ってつらすぎる。。。
逃げ出したいくなります。



飲んべえのおっさんからまれるわたし。
なんだかんだ宴会好きのわたしは、この雰囲気は楽しいから大好き。
これでお酒がおいしければね。

ガイドのスックのふるさとの村なので、里帰りとなったスックも通りかかりの家家で飲まされていました。

ローカルビーポーはみんな喜んで飲んでいるかと思いきや、そんなこともなく、結局好きで飲んでるのはおっさんだけでした。

若者はみんな明らかにもう飲みたくない顔。

伝統つつうのも大変なもんです。

しかも不思議なことに、歓迎会を開いてくれるのにお金をとられるという。。。

どういう感覚なんだ。

日本でそんなことしたら間違いなく嫌われるでしょう。

飲みたくもないお酒を飲まされてお金をとられるなんて。

ほんとに不思議なもんだけど、歓迎してくれるという気持ちがやっぱりありがたいもんね。







村には驚くほど子どもがたくさんいます。
犬、猫、鳥、豚、みんな子どもだらけです。
日本とえらい違い。
素敵！

村の人々は服がボロボロだし、物質的には非常に貧しいのだと思います。
でも、彼らを見ていて貧しいとは全然感じないし、悲壮感もまったくありません。
本人達も自分たちを貧しいとは言いません。

家族や親戚同士とても仲が良く、笑顔で、礼儀正しくて、
貧しいとか豊かって一体なんなのかなって思います。

日本はあんなに物質的に豊かなのに、心が病んでいる人がたくさんいるのはなんでなんだろう？

村にはわずかに電気があります。
川の水を利用して電気を生み出しているようです。
村長の家と、あと数件の家にテレビがあって、みんなで集まって見ていました。
ただ、テレビをつけると部屋の電気が消えます。
街灯もないので日が暮れば真っ暗。

村初日、わたしはギブアップ寸前でした。
村にはトイレもシャワーもありません。
全てが“野”です。
シャワーは川で水浴び。
まさかこの歳で川風呂に入ることになるとは。。。

そしてミネラルウォーターなんてこの村にはないので、
完全なるローカルウォーターを飲むしかありませんでした。
そして招かれた家で食べた牛の生ホルモンみたいなやつ・・・。
もう絶対にお腹をこわすだろう。
もうダメだ。

と思っていたのも束の間。
お腹なんか全然大丈夫だし、というよりむしろ日本にいるより体調もよく、
2日目にはすっかりこの暮らしに慣れました。
自分にびっくり。

わかったことは、“気合い”が大事だということです。
快適なトイレがある環境にいますとお腹が甘えて、頻繁にトイレに行きたくなくなったりお腹を壊すのだということに気づきました。
そう簡単にトイレには行けないと思えば、お腹だってがんばるのです。
すべては気合いである！

ローカルウォーターも全然大丈夫でした。
一度沸騰させているらしいことがわかった瞬間、この水の信頼度がグン！
3人ともガブ飲み。

なんなんでしょう。
3人とも日本にいるときより明らかに体調がよいのです。
自然は体にいいってことかな。

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2011.12.16 | [パーマリンク](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[思い出だけ捨てればいいじゃない。](#) > 2011年12月 アーカイブ

サバイディー／2 ソン

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック

サバイディー！

ネット環境がよろしくなくて全くリアルタイム更新できませんでしたが、
とりあえずアップ。

ルアンパバーンからホンサーに移動。
写真展をやる村には衣類が足りないとのことで、大量の衣類と、
各々の荷物と、プリンター。
はっきり言って運べない量である。



ホンサーまではボートでメコン川を上ります。
約8時間。



ラオスでは本当にたくさんの子どもを目にします。
仲良しの微笑ましい家族をいろんなところで見かけました。
なんて素敵。

ホンサーでは"Jumbo Guesthouse"に宿泊。
ドイツ人のモニカがやっているゲストハウス。

モニカが犬や猫に囲まれて生活しているところにお邪魔する、みたいな、
ちょっとホームステイな気分になるゲストハウスです。

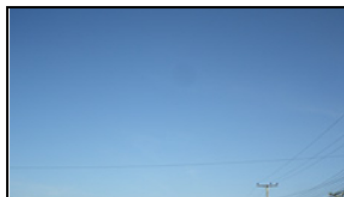


モニカは世話焼きのいい人。
でも、料金システムだけ要注意ですね。
食事を笑顔で快く提供してくれるんだけど、あとでしっかり料金が加算されるので
そこだけは確認が必要！

でもいい人です。

モニカには現地ガイドさんを手配してもらっていたので、
ここではもっぱらこの先のプランの作戦会議。

でもいつもワンコやにゃんこがすりよってきて、まるで緊張感がない感じです。





ホンサーは朝夜がものすごく寒いところです。
ヒートテック2枚重ねの日々。



そしてパブリックソンテウに大量の荷物を積み込み、
写真展開催の地、Huaiky Laiy（ファイライ？）に出発。

ソンテウの乗り心地はまあとくつくみみたいなものですが、
乾期のせいか砂埃が地獄並みで、乗る度に病気になるいそぎでした。

ポート乗り場まで1時間ほどソンテウで砂まみれになって、到着。
全身赤茶色。



ポートで30分ほどメコン川を下り、タヌンまで。





これから苦楽を共にするガイドのスックと、コックのおぼちゃんのワンさん。



モニカの計らいで食料も持って行くことになったので、荷物がどえらい量になってます。



しかし、この時点でモニカの食器やらミネラルウォーターを入れた箱を1箱どこかに忘れてきたことが発覚。

5人もいたのになんてこった。

そして水がないのが超痛い。

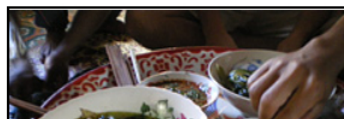
ここから村に滞在している間、モニカに怒られることに怯えながら過ごす私たち。



で、とにかく荷物が多過ぎる。

タヌンではお昼ご飯をいただきました。

初の完全ローカルラオスタイル。





何なのかはよくわからないけど、美味しい！
しかし、米につけるやつはもれなく超からい。
地べたにあぐらをかいて手で食べるのはすぐ馴染めますね。

とにかく、3人も食いしん坊なので遠慮というものができません。
「うめー！うめー！」です。
日本で食べてないみたいじゃないか。

そしてタヌンからは山道をトラクターで移動。
悪路なり！

でも森はすごくきれい。
いやー、だいふ奥地まで来ましたね！



カテゴリ：

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2011.12.16 | [パーマリンク](#) | [トラックバック\(0\)](#)

思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2011年12月 アーカイブ

11.12.05

サバイディー / 1 ヌン

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック

遅くなりましたが、12月1日深夜に日本を発ちましたよー！
この度は、ラオスの山奥のエレファントキャンプにて写真展を行うため、
1期生の徳田さんと紺野さんと第2次フィールドワークです。
あ、徳田くんは第3次？4次？
実はわたし4月に結婚しまして石川という苗字になりました！
イェー！！
というわけで、愛する旦那さんの理解と協力のもと、出発です。





久々のバックパック。
全部で17キロくらい。

徳田くんは旅用リュックをマレーシアに置いてきたみたいです。
びっくりするくらいふつうのリュックで現れました。
イーストボーイって。



エアアジアの機内食は予想に反してやたら日本的なものが出来たね。
乗る前にカツ丼を食べたので、お腹がはちぎれそうでした。

そして、まずはマレーシア・クアラルンプールに到着。
機内泊による寝不足のため、冴えないメガネーズ。



KLの空港はそりゃもう外資系の店ばかりで、以前来たときとはだいぶ変わっているようでした。

空はどんより曇り。
日本のような空だけど、蒸し暑くてあっという間に汗だくになりました。



初日はKLのスクーリング施設に1泊です。
現在、5期生の椿さんと穂積くんが住んでいて、朝っぱらからお世話になりました。

5年ぶりのスクーリング施設！
なつかしい！
まさかまた来れるとは思っていなかった。

1期生の面影がたくさん残されていて、ワイワイここで過ごした日々を思い出しました。



そしてお隣の“STAR MART”は、ただの“MART”に。
さみしい。

とにかく、KLは建設ラッシュ！
東京より全然都会です。
すごいです。
ショッピングモールの規模のでかさに呆然。

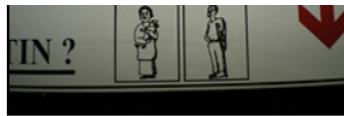
しかしこの規模の建物がレンガ造りということにも呆然。
強度的には大丈夫なのでしょうか。
積み上げる労力を考えただけで気が遠くなります・・・。





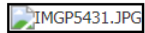
いつ見てもツインタワーはカッコいい！





そしてラオス・ビエンチャンに出発！

わたしは、荷物が多いのできっと役立つと思ってキャリーカートを持ってきていたんです。でも、荷物を預けたあとのゲートで係のおねえちゃんに「それは持ち込めないわよ」と注意されて、泣く泣くゴミ箱へIN。



さようなら、わたしのキャリーカート。

わあああ 空がきれい。



そしてビエンチャンに到着！

ラオスのはどかと聞いていて、ずっと来たいと思っていました。噂どおり、みんなとてもんびりしています。

今まで東南アジアの色々な国に行きましたが、こんなに客引きにあわない国は初めてです。商売っ気が本当に少ないというか、とにかく外国人旅行者にかまってきません。

メコン川。

川の向こうはタイです。

川の向こうに外国が見えるなんて、日本人のわたしには不思議な感じ。



“わたしとメコンと国境と”



プレました。
でも今回の旅では自分の写真をちゃんと残そうと思っているのです。
なぜなら、フィールドワークのときにほとんど自分の写真を撮らなくて後悔したから。
自分がそこに行ったということをしっかり残したいなと思います。

夜はローカルマーケットに。

ビエンチャンはラオスの首都ですが、とても小さな町です。
一国の首都とは思えないです。

ビエンチャンの町を歩いていると、本当にたくさんの子供を見かけます。
子供同士で集まって遊んでいたりと、お父さんに連れられてマーケットを歩いていたりと、家の前で家族とバドミントンをしたり。

マーケットの中にはちょっとした遊園地のようなものがあり、地元の子供たちがとても楽しそうに遊んでいます。



子供と猫と犬がたくさんいる、素敵な町です。

ラオスのごはんはこういう器(?)に入ってるんですねー。



お弁当みたいなもんなんでしょうか。
餅米みたいなのがこの素敵BOXIに入っ出てきます。

なんだか毎日移動移動で、なかなかブログが書けない・・・。
早朝出発なのに夜中までなんだかんだで起きてしまっているし。

とりあえず、ケンカもせずに仲良くやっております。

でもどうしたことが、こんちゃん&敬ちゃんの間で"ももいろクローバー"が大流行しているよう
で、
ラオスに来てでもクロを聞かされる日々・・・。
隣で大マジでもクロ談義しているもんだから、わたしは苦しいです。

でも元気です。

今日は11時間バスに乗ってビエンチャンからルアンパバーンにきました。
明日はボートでメコン川を登り、ホンサーへ行きます。
またブログ書きまーす。

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2011.12.05 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)